

第24回物性若手「夏の学校」開催後記

名古屋大学物性若手グループ

私たち準備校では本年度の「夏の学校」を準備する過程で、昨年度準備校が指摘された3点(①参加者の減少, ②DC層の参加者の減少, ③サブゼミの講義形式化)について克服する方策はないものかと議論致しました。そうした議論の結果、私たちは今回の「学校」の方針として、(1)サブゼミではDCを中心に研究発表をしてもらい若手の研究交流を促進させる。(2)全体講義ではMCなどを主な対象として基礎的なところから始めていただき最近のトピックスまで話していただく、との2点を決めました。更に、学校成功のために、現在の院生の研究意識と状況の概観を把握し、「夏の学校」に対する希望・意見をきくべくアンケート調査を行ったり、春の学会において Informal Meeting を開きサブゼミ担当者との連絡・打ち合わせを行ったり致しました。

サブゼミに対する方針につきましては、「基礎Ⅱ」・「低温」など若手の研究発表を中心に運営されたサブゼミもあり私たちの方針が一応貫かれたと考えています。全体講義につきましても私たちの考えを講師の先生方にお知らせし講義に反映していただくように致しました。以上の内容の面に加えて「転地」の意を込めまして開催地を例年と変えましたが、院生・講師・一般合せて約250名が参加しました。この人数は昨年より多く私たち準備校の願いが達せられた訳であります。今回私たちはいくつかの新たな取り組みを行なったわけですがその上で痛感しましたのは、物性若手の「夏の学校」は準備校まかせにするのではなく事務局を初めとして物性若手全体が負うものである(べきだ)という事です。この点で一つの提案として述べますが、本年私たちが開きました Informal Meeting を今後とも開くと良いと思います。物性若手事務局・「学校」準備校が共催するなどして学会の際に開き、全体講義のテーマの選考・決定とかサブゼミ世話人との連絡などを行なえば「学校」を成功させる上で有効と思います。

最後になりますが、全体講義・サブゼミの講師の先生方にはテキストの原稿の準備から本番の講義に至るまで大変御骨折り下さりここに改めて御礼申し上げます。又、Gunton 先生には短時日の日本滞在にもかかわらず遠い所からわざわざ来演していただき私たち準備校は深く感謝致しております。更に、Gunton 先生の講演を提起し連絡の労